

若刈イタリアンライグラスと飼料用大豆の連続栽培によるタンパク質源飼料の生産技術

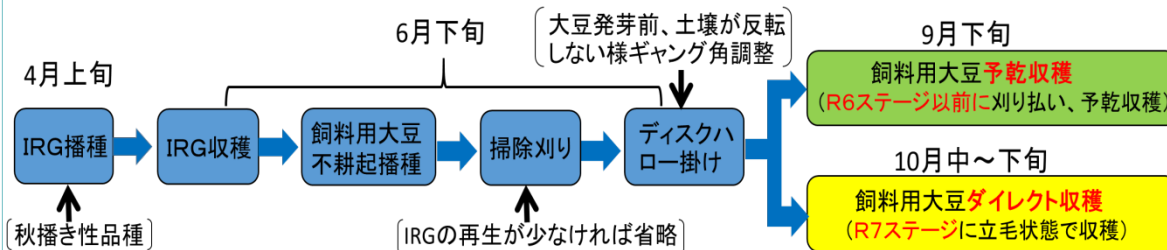
イタリアンライグラスと飼料用大豆の連続栽培により、タンパク質源飼料の自給生産を実現し、乳用牛飼養農家の経営安定に貢献

研究開発の背景

- ・アルファルファは乳牛飼養に不可欠なタンパク質源飼料であるが、日本の畑に多い酸性土壌への適応性が非常に低いため栽培が難しく、大部分を輸入に依存している。
- ・このため、アルファルファを代替できるタンパク質源飼料の自給生産技術を確立する必要がある。

研究成果の内容

イタリアンライグラス(IRG)の再生草による雑草抑制で大豆を省力栽培



イタリアンライグラス収穫後の再生草で大豆の畦間を被覆

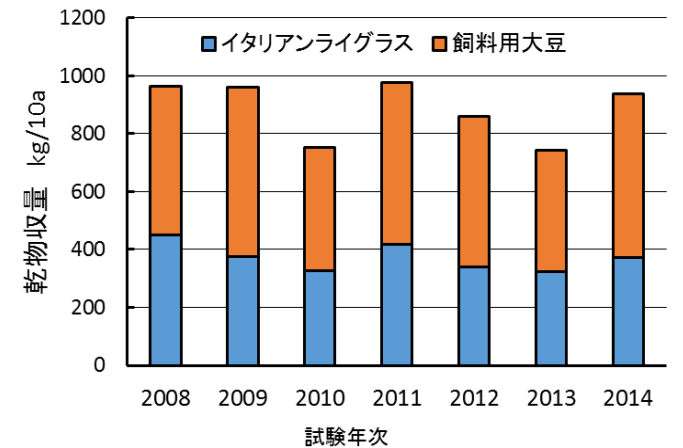


中耕や除草剤の散布なしに飼料用大豆を省力的に栽培できる



導入メリット

タンパク質源飼料を自給生産



- ・粗タンパク質含量はイタリアンライグラスが15-17%、飼料用大豆が20-25%で、いずれもタンパク質源飼料として利用可能である。
- ・栽培～サイレージ調製に必要な資材費は、乾物1kg(イタリアンライグラス、飼料用大豆共通)当たり約27円である。

期待される効果

- ・栽培が困難であったタンパク質源飼料の自給生産が可能となることにより、乳用牛飼養農家の経営が安定する。

導入をオススメする対象
乳用牛飼養農家